

# 読響

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

# この地球を 神と崇める。

地球は生きながらえるのだろうか。音楽は永遠なのだろうか。



## 下野竜也

指揮

Conductor **TATSUYA SHIMIZU**

ピアノ **小川典子**  
Piano **NORIKO OGAWA**

合唱 **上野学園大学合唱団**  
Chorus **UNIVERSITY CHOIR**

コンサートマスター **ダニエル・ゲーテ**  
Concertmaster **DANIEL GAEDE**

## 松村禎三：ゲッセマネの夜に

**YOSUO MATSUMURA: In the Night of Gethsemane**

## モーツァルト：ピアノ協奏曲 第24番

**MOZART: Piano Concerto No. 24 in C minor, K. 491**

## J.S.バッハ（ストコフスキー編）：ゲッセマネのわが主よ

**J.S. BACH (arr. STOKOWSKI): Mein Jesu (Gethsemanes Lied from Schemelli's Gesang-Buch), BWV 487**

## カレル・フサ：この地球を神と崇める

**KARL HUSA: Apotheosis of This Earth**

読売日本交響楽団 第574回 サントリーホール名曲シリーズ  
2014年 9月16日(火) 19時開演 **サントリーホール**  
S ¥7,200 A ¥6,100 B ¥5,100 C **SAITOH**  
The 574th Suntory Hall Popular Series / Tuesday, 16th September 19:00 / Suntory Hall

お申し込み・お問い合わせ  
読響チケットセンター **0570-00-4390** [10時-18時・年中無休]  
<http://yomikyo.or.jp/> プレイガイド：チケットぴあ、e+ほか

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団  
助成：文化庁文化芸術振興補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)、公益財団法人アフィニス文化財団



# 下野 竜也

## ゲッセマネ、祈り、受難、そして復活へ

澤谷夏樹(音楽評論家)

### 指揮 下野竜也

Conductor TATSUYA SHIMONO

鋭い感性と熱い魂で活気に満ちた音楽をつくる俊英指揮者。2006年から6年余り、読響・正指揮者として、意欲的なプログラムを次々に披露。ドヴォルザークの交響曲を邦人指揮者としては初めて全曲演奏したほか、11年度「ミュージック・ベンクラフ音楽賞」を受賞するなど、多大な功績を残した。昨年4月からは、読響・首席客演指揮者を務める。1969年鹿児島生まれ。大阪フィルの指揮研究員時代には、朝比奈隆氏らの薫陶を受けた。ウィーン国立演劇音楽大学に留学中、東京国際音楽コンクールとプサンソソ国際青年指揮者コンクールで優勝。以降、チェコ・フィル、シュトゥットガルト放送響、ローマ・サンタ・チェチーリア管、ミラノ・ヴェルディ響、ウィーン室内管、南西ドイツ・フィルなどと共演し、国際的な活躍を展開している。現在、広島ウインドオーケストラ音楽監督、京響常任客演指揮者、上野学園大学教授。

下野竜也が9月、カレル・フサの〈この地球を神と崇める〉を採り上げる。吹奏楽の世界ではいづらか知られたこの曲だが、管弦楽版は日本初演とのこと。1970年、アメリカのミシガン大学吹奏楽団の委嘱で書かれ、72年に合唱・管弦楽用に編曲された。フサはこの作品で、音列技法をはじめ前衛的な作曲法を色々試みる。半音よりも狭い4分の1音を用いたり、「音を自由に伸ばせ」「任意に繰り返すこと」など、楽譜に不確定の部分を作ったり。作曲家によるとこの作品は、戦争・飢饉・環境汚染・種の絶滅といった問題の果てに地球が崩壊する、そんな道行きを描いているという。この曲が書かれた東西冷戦期はもちろんのこと、今日の日本の状況をも鋭く指摘する内容だけに、フサのメッセージはわれわれの心にいっそう重くのしかかる。

しかし当夜のプログラムには、希望を見いだすための「仕掛け」が施されている。演奏会の冒頭に置かれた松村禎三の〈ゲッセマネの夜に〉(2002年)がその鍵だ。中世のイタリアの画家ジョットの絵画『ユダの接吻』に触発されつつ、作曲家はこの曲を書きすすめたとされる。ゲッセマネはエルサレムにあるオリブ山の北西に位置する園。新約聖書の福音書によると、最後の晩餐を終えたイエスが数人の弟子を伴って訪れ、祈りを捧げた場所だ。そしてユダの裏切りにあい、祭司長の使いに逮捕された場所でもある。

「ゲッセマネの園」から「破滅的な悲劇」へ。プログラムの流れはそのまま、キリストの受難譚をトレースしている。そんなところからすると、松村とフサとに挟まれたモーツァルトの〈ピアノ協奏曲ハ短調〉はさしずめ、オリブ山で捧げられた「イエスの苦悶の祈り」ということになる。

重要なのは、受難の後には復活が控えている、ということだ。もちろん演奏会は「地球が滅亡して」終わる。しかし〈ゲッセマネの夜に〉を冒頭に置いたことで、プログラム全体が受難曲となり、その後の「復活」を予感させるものとなった。これが当夜の「仕掛け」だ。

フサは〈この地球を神と崇める〉の総譜に、地球の荒廃が幻であってほしい、と書いている。当夜の演奏会は、このフサの言葉に対する下野なりの答えなのだろう。それと同時に、日本の将来に対して健全な楽観主義を示している。フサに希望の音は聴こえるか。下野と読響の「イースター」は、秋の初めにやってくる。

# 小川 典子

### ピアノ 小川典子

Piano NORIKO OGAWA

英国と日本を拠点に世界各国へ演奏旅行を行うほか、国際コンクール審査、マスタークラスなど広範囲な活動を展開中。北欧最大のレーベルBISより30枚のCDをリリース。2014年BBCラジオ3の名門番組「CD Review」で、ドビュッシー(映像)が評論家の「最高の推薦録音」に選出され、大きな話題となった。13年はBBCプロムスへの出演で注目を集めたほか、モスクワ放送響、チェコ・ナショナル響などの英国ツアーのソリストとしても出演。14年も国際的な音楽祭への出演や、菅野由弘(ピアノの粒子3部作)の録音(BIS)が予定されている。英ギルドホール音楽院教授、東京音楽大学客員教授、ミュンヘン・シムフォニーホールアドバイザー、「ジェイミーのコンサート」主宰、イプスウィッチ管弦楽協会名誉パトロン。文化庁芸術選奨文部大臣新人賞受賞、川崎市文化賞受賞。 <http://www.norikoogawa.com/>



### 合唱 上野学園大学合唱団

Chorus UENO GAKUEN UNIVERSITY CHOIR

声楽コースの全学生による合唱団。常任指揮者は前田幸康教授。1958年に始まった定期演奏会に女声合唱団として参加して以来、年2回の定期演奏会をはじめ、N響定期公演ほか各地の演奏会に出演。2007年に男女共学制の施行と共に混声合唱団として新しく出発した。委嘱オラトリオ〈宇智利〉(詩石橋裕、作曲 黛敏郎)などの邦人作品をはじめ、ヴィヴァルディやラターの作品など、古楽から現代にいたる多彩な合唱作品を「合唱」の授業を通して学び、発表している。

読響日本交響楽団 第574回 サントリーホール名曲シリーズ

2014年 **9月16日(火)** 19時開演

**サントリーホール**  
 S ¥7,200 / A ¥6,100 / B ¥5,100 / C **SOLD OUT**

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001(オフィス)  
 ●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分、東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

●学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。  
 ●団体割引: 読響チケットセンターにて同一公演の1回券を10枚以上まとめてお求めになった方に団体割引をいたします。  
 ※都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。\*未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390 \*10時-18時・年中無休  
 読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>  
 \*座席選択してチケットをご購入いただけます。(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)  
 \*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド: チケットぴあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017、イープラス <http://eplus.jp/>